

学力向上だより 第11号

(12月22日発行)

ぶんせき 文責 学力向上担当 蓮田 健



武雄中学校教育目標
高い志と誇りを持ち、心豊かで輝く生徒の育成

2018年の埼玉新聞WEB版に〈高校入試直前コラム〉としてコラムが掲載されました。3年生だけでなく、他の学年の皆さんにも参考になる内容です。四回に分けて掲載します。

<高校入試直前コラム1>明暗を分けるたった1問1点をゆるがせにしない勉強を

つい最近のことですが、昨年度の大阪大学の入試で採点上のミスがあり、30人もの受験生が追加合格となりました。ミスがあったのは、たった1問でその問題の配点は3点でした。100点満点のうちのたった3点です。大学入試と高校入試とは制度や仕組みが異なりますが、それだけで合否が変わってしまうということです。受験生の皆さんは、ぜひこのことを肝に銘じ、1問1点をゆるがせにしない勉強を続けてもらいたいと思います。

■10の曖昧な知識より1の確かな知識

受験当日、皆さんの力になってくれるのは、10の曖昧な知識よりも1の確かな知識です。この時期になると、不安や焦りから、どうしても手を広げ過ぎてしまいます。「ここもまだだった」、「あそこもやっておかななくては」と、どんどんやるべき範囲を広げてしまうのです。しかし、自分の中にしっかりと定着していない知識は、実際に問題を解く上で、ほとんど力になってくれないのです。であれば、そのような曖昧で不確実な知識を増やすより、確実な知識を一つでも二つでも積み上げたほうが得策です。

■今まで受けたテストの中にすべての答がある

皆さんは、この1年間、学校内で、あるいは学校外でいろいろなテストを受けてきたと思いますが、本番当日に出る問題のほとんどは、その中にあります。校外模擬試験などの問題は、過去のデータに基づいて、もっとも出やすい問題が選ばれています。また、学校の定期考査の問題は、中学生としてマスターしておきたい基礎・基本の問題が出されているはずですが、これらをもう一度見直し、確実なものにしておけば、本番当日、「あっ、この問題、前にやったことがある」という体験をすることになるでしょう。これまでに受けたテストの復習を必ずやっておきましょう。

■過去問こそが最高の予想問題集

入試問題では、繰り返し同じような問題が出題されています。まったく同一ということはありませんが、出題内容や出題形式は非常によく似ているのです。過去に出たことがない問題よりも、過去に出たことがある問題の方が、出やすいと言えます。まず県の過去問5～6年分を完ぺきにできるようにしましょう。さらに余裕がある人は、近県の過去問にトライしてみるのもいいでしょう。中学生が習う内容は、全国共通ですから、入試問題も非常によく似ているのです。

■梅野弘之氏

教育ジャーナリスト。元埼玉県公立高校教諭。

2018.1.22 = 埼玉新聞 WEB版 =